OMM JAPAN2018 テクニカルディレクター レポート

5 回目を迎えた OMM JAPAN は山深い奥三河のフィールドで、ナビゲーションに重きを置いたコースを提供することになりました。

本国 UK の THE OMM のように広大なフィールド、過酷な環境、ナビゲーションスキルやフィジカル、野営技術を一度に提供することは、日本では非常に難しいことです。毎回、競技エリアの特性により与えられる課題が異なる中で、いかに参加者にチャレンジングな時間を提供できるか、かつ安全を確保するかが、競技チームの目標でした。

コースと安全管理の詳細については小泉、村越のレポートをご覧ください。

競技を振り返って

リザルトのつけ方

今回は、参加者にとってはナビゲーション力が難しい方向に振れたのか、リザルトがつかないチームが多くありました。OMM では参加者にチャレンジングな場を提供することに重きを置いています。よって、ただ『失格』にするのではなく、mp, ret,そしてルール逸脱による一番重い『失格』と細かく分けています。これは少しでも参加者のチャレンジングな姿勢を汲みたいためです。総合成績はつかなくても 1 日目、2 日目のリザルトをそれぞれ出すのにはそのような意味もあります。

SI チップ本体とリストバンド

2 日間の記録をとるための SI チップ、リストバンドの強度が弱い印象を受けました。紛失、リストバンドが外れたチームは全体の 1%前後ですが、それでも例年以上に多いように感じます。SI チップが外れ紛失することで、失格となってしまったチームはとても残念で悔しいことかと思います。リストバンドは外れないことを大前提としていますが、今一度 SI チップ本体とリストバンドの耐久性の精査をします。また今後、受付で装着後、結合部分の補強の許可、確認などを促すようにします。

2 日目スタートについて

1 日目のタイムオーバー、失格チームを含め、成績がつかなかったストレートクラスのチームは、2 日目は本来なら早くのスタートのはずでしたが、該当チーム数が多かったため、タイムオーバーチームは通常スタート時刻としました。

優勝を争うシビアなクラスでは、1 分おきのスタート時刻をどのポジションにするか少なからず駆け引きがあります。これについて本国ではチェイシングスタート(1 日目成績の良い順からスタートしていく)を行っており、日本でも拮抗したレベルになってきていることを踏まえると、取り入れる時期に来たのではないかと考えます。いずれも、スタート時刻枠、スタート順など来年以降の検討事項とします。

ルールを守るということ

失格になったからと言って、2 日間の競技が終わるまではルールから逸脱しないようにしてください。周囲には失格にならないようにルールを守って競技を続けているチームがいること、同じイベントに参加している仲間であることを少しでも意識していただけたら嬉しく思います。

21 時就寝というルールを逸脱し、酒盛りをしていたいくつかのチームに注意をすると、どうせ失格だから、とのコメントが返ってきました。また、自ら出したゴミをキャンプエリアから出て公共のゴミ箱に捨てに行っ

たチームもありました。自分たちが楽しければ、荷物を軽くし楽になればそれでよいのでしょうか。
もしかしてゴミを捨てに行くようなことをしなければ、テープでかたくなにエリアを囲い立入禁止などとしなくてもよいのかもしれません。場所にも寄りますが、まだそうせざろう得ない状況であることはやや残念に思います。
また、なぜ荷物のデポをしてはいけないか、パートナーと離れてはいけないか、それぞれにきちんと意味があります。そのような行為で失格になってしまうのは残念なことです。

受付で提出する同意書の意味

1 日目スタート前の受付では各チーム同意書の提出を義務付けています。2 枚の同意書は大前提のルールが記載され、装備チェックも兼ねています。そこにサインをしているということは、装備もきちんと持っている、ルールを守っているということになります。ところがルールの逸脱や必携装備の不携帯は、そもそも嘘をついていることになってしまいます。
ただ名前を書いて、チェックをして提出すればいいというものではありません。もう一度同意書を提出してレースに臨むその意味を考えていただけたら幸いです。

おわりに

2014 年に本国 UK の THE OMM に初出場し、続けて 3 年出場しました。全く同じように日本ではできないかもしれない、それでも OMM のマインドを持って同じようにできるのではないかと、運営者の一員として、OMM JAPAN に携わってきました。
あっという間に 5 回の OMM JAPAN が終わりました。これから日本の OMM はどのようになっていくのでしょう。みなさんとともにも日本の歴史を刻んでいけたらと思います。

最後に、参加したすべてのみなさん、OMM を愛するボランティアの方々、混乱なくスムーズな運営に徹した競技スタッフ、参加者を見守りながらも、時には厳しい判断をせざろう得なかった安全管理チーム、イベント成功のために尽力した実行委員会の面々、すべての方々に感謝とお礼を申し上げます。
ありがとうございました。

テクニカルディレクター　田島利佳